

睡眠時無呼吸症候群

日本には正確なデータはないが、米国の調査では約3%の子供がSASという。大阪大学病院と大阪回生病院で子供の睡眠障害について診察している、重症心身障害児施設・砂子療育園（兵庫県西宮市）の西村久美医師（小児科）は「三歳から六歳の子供によく見られます。親が注意しなければならぬのは、いびきをかいているかどうか。基本的に小さな子はいびきをかかないので、注意信号になります」。

原因の多くは、あごが落ち着きなし、攻撃性……

成長遅れの恐れも

寝ている間に呼吸が一時的に止まってしまおう「睡眠時無呼吸症候群」（SAS）。肥満した中高年の病氣と思われがちだが、子供もかかるという。大人と違い、呼吸が止まってもひどい酸素欠乏になることは少ないが、昼間に落ち着きの無さや攻撃性などの症状が見られる。睡眠が障害されるために成長ホルモンの分泌が低下し、成長や発達が遅れる恐れも。子供の睡眠状態を観察し、激しいいびきをしているようであれば、SASを疑い、専門医を受診したほうがよい。

寝ている間に呼吸が一時的に止まってしまおう「睡眠時無呼吸症候群」（SAS）。肥満した中高年の病氣と思われがちだが、子供もかかるという。大人と違い、呼吸が止まってもひどい酸素欠乏になることは少ないが、昼間に落ち着きの無さや攻撃性などの症状が見られる。睡眠が障害されるために成長ホルモンの分泌が低下し、成長や発達が遅れる恐れも。子供の睡眠状態を観察し、激しいいびきをしているようであれば、SASを疑い、専門医を受診したほうがよい。

いびきかく子は注意



西村久美医師

<ul style="list-style-type: none"> いびき あえぎ呼吸（鼻おなかの動きが強い） 呼吸停止 異常な体位（うつむき、座位） よだれ 夜尿 多汗 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着きのなさ 集中力の低下 攻撃性 イライラ感 眠気 頭痛
---	---

変わったいくのだとい。一方、日中は特に攻撃性や落ち着きの無さ、集中力の低下が顕著で、西村医師は「睡眠時無呼吸症候群の子の場合、診察中も落ち着きがなく、動き回ったりする傾向がありますね」と指摘する。そのほかにも、大人の症状で見られる眠気や頭痛もあるようだ。

このため早めの治療が大切になってくる。欧米では最近、「終夜睡眠ポリグラフィ」を子供の体に装着して睡眠状態を多角的に調べる検査が一般的だが、国内ではそれが可能な医療施設がまだ限られている。西村医師は「日本では子供の睡眠医学がまだ確立されていないため、正確な診断をするうえで課題は多い」と指摘する。

それでも、「子供の睡眠時無呼吸症候群では、肥大した扁桃腺やアデノイドを取り除く手術をすれば、その多くが改善される。小さな子の手術は困難を伴いますが、早く処置することで、合併症や発達障害を防げるかも